



松くい虫被害地の再生（前橋市）

### ○参考（作業状況）



## 5 成果

- ・ 平成26～28年度内に計1,386haの森林整備を実施しました。
- ・ 計画的な森林整備を推進するため、5,171haの区域調査を優先して実施した結果、約3,600haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。

## 6 課題・方向性

- ・ 調査対象となる人工林が小規模で面的にまとまっておらず、調査対象となる森林所有者数も多くなっていること、また、不在村森林所有者が増加していることから、区域調査においては森林所有者や境界の特定、実施計画調査においては、測量に多大な時間がかかっており、早期の森林整備の発注に支障をきたしています。

承諾の得られた森林所有者の周辺の森林所有者にも事業の説明を行うなど、施行地をとりまとめるなど、事業の効率化を図ります。また、市町村と連携・協力し、今後作成される林地台帳を活用するなど、森林境界と森林所有者の明確化に引き続き取り組んでいきます。

- ・ 区域調査による受注者からの説明では理解を得られず、協定が締結できなかった森林所有者については、引き続き担当職員と森林組合の担当者が連携・協力を図りながら、森林所有者への説明を行うことで、協定締結の推進を図ります。

- ・ 奥山で道から遠い作業箇所や小規模で面的にまとまっていない作業箇所が多く、作業効率が向上しないため、労働力が必要となってくることから、受注者に対し、新規就労者の雇用促進や他の事業者と連携するなどの指導を行っていきます。

- ・ 過密林を間伐することにより、野生獣が森林に進入しやすくなり、地域によっては皮剥等の被害が発生していることから、皮剥を防止するための資材等を残存木に設置するなどの対策を行っていきます。

- ・ 平成26～28年度は、計1,386haの森林整備を実施しました。当初、区域調査・実施計画調査を先行して実施してきたこと、また調査において森林所有者等の特定や境界の特定に時間を要したことから、森林整備が進まず繰越が多い状況となりました。その後、調査が進み森林整備の推進が図られたため、繰越は徐々に減っていますが、依然として繰越が多い状況となっていますので、繰越箇所の早期完成及び繰越解消に向けた早期の発注を行います。

## 7 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 当初、区域調査・実施計画調査を先行して実施したため、森林整備が進まず繰越が多くなり目標達成には至りませんでした。その後、調査が進み森林整備の推進が図られたことで、繰越の解消及び進捗率の向上に繋がりました。

- ・ 担当職員と森林組合の担当者が連携・協力したことにより、区域調査における協定締結の推進が図られました。

- ・ 担当職員を対象とした選木技術の向上を図るための現地研修を実施し、公益的機能が向上する森林整備の推進が図られました。

- ・ これまで放置されていた森林を整備したことにより、林内の光環境が改善され、下層植生の増加が見られるなど、水源涵養機能等の森林の持つ公益的機能の維持・増進が図られました。

## Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 《緑化推進課》

### 1 概要

#### ● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジン等による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出し、森林ボランティア体験会の開催など、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

また、「森林ボランティア体験会」や「ボランティア交流会」の開催、市町村提案型事業等への講師・コーディネーター派遣業務等を実施します。

#### ● 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや市町村提案型事業（森林環境教育）、緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

### 2 実施状況

【平成26～28年度の実績】

32,514千円

#### ○ 森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営
- ・専用ホームページ「モリノワ」の運用
- ・情報誌「モリノワ」、メールマガジンの発行
- ・森林整備作業用の機械・器具の貸し出し：計195回
- ・安全講習会 開催回数：計30回、参加人数：計717名
- ・森林ボランティア体験会：開催回数：計8回

#### ○ 森林環境教育の推進

- ・緑のインタープリター養成講座の開催
  - ・新規講座：計25回（養成者数48名）
  - ・経験者講座：計12回（養成者数43名）
- ・緑のインタープリター登録者数：94名
- ・フォローアップ研修 開催回数：計6回



情報誌「モリノワ」



貸出し機材



ボランティア体験会



刈払機の安全講習会



指導者養成講座

## 3 成果

### ○森林ボランティア活動の推進

森林ボランティア支援センターを運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジンなどによる情報発信や刈払機取り扱いなどの安全研修、森林整備作業器具の貸出、新規参入を促すボランティア体験会などを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。

### ○森林環境教育の推進

- ・指導者養成講座の実施により、新たに91名の「緑のインタープリター」を養成しました。
- ・新たに開始した「緑のインタープリター活動登録制度」により94名が活動登録しました。
- ・登録した「緑のインタープリター」は、市町村提案型事業(森林環境教育)や出前授業の「小・中学生のためのフォレストリースクール」の講師など多方面で活動を行いました。

## 4 課題・方向性

### ○森林ボランティア活動の推進

- ・県民自らが森林や林業に関心を持ち森林保全や森林整備の必要性について理解を深めることが重要なことから、森林ボランティアに取り組む団体等の支援をさらに推進する必要があります。

### ○森林環境教育の推進

- ・森林や自然に対する県民の関心と理解を深めるためには知識・ノウハウのある指導者が不可欠なことから、引き続き指導者の計画的な養成を図っていく必要があります。
- ・また、フォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)等の指導者ニーズに対応するため、指導者の量的・質的確保を図る必要があります。

## 5 実施状況の評価（評価者：県）

### ○森林ボランティア活動の推進

専用ホームページや情報誌、メールマガジンによる情報収集・発信、刈払機などの安全研修、森林整備作業器具の貸出、ボランティア体験会の開催などの取組を行い、おおむね計画どおりに支援を実施しました。

平成28年度末の森林ボランティア団体数は86団体、会員数5,344人(緑化推進課調査)と増加傾向にあります。

### ○森林環境教育の推進

現地研修や講師実習など実践的なカリキュラムを含め年12回の講座を開催し、91名の「緑のインタープリター」を養成しました。

なお、活動登録者数は94名となり、着実に増加しています。

## 6 評価検証委員会の意見

## 1 概要

- 荒廃した里山・平地林の整備  
市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。
- 貴重な自然環境の保護・保全  
市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。
- 森林環境教育・普及啓発  
児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。  
森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。
- 森林の公有林化  
水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林を造成しようとする市町村を支援します。
- 独自提案事業  
ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

## 2 実施状況

【平成26～28年度の実績】

544,339千円

## 3 平成26～28年度の実績

・平成26年度から平成28年度までの3年間の実績は下表に示すとおりです。

	完了			事業量
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	29	331	453,791	森林140ha、竹林79ha、管理151ha
貴重な自然環境の保護・保全	12	54	15,216	動物14種、植物28種
森林環境教育・普及啓発	22	85	33,576	参加者数17,460人
森林の公有林化	3	4	26,966	水源林11ha、平地林1ha
独自提案事業	4	13	14,791	森林9ha、竹林9ha
合計	35	487	544,339	